

第14回 縄文楽検定 上級 解答集

令和4年4月作成

テキストから約60%の出題でした。テキストの略称は以下のとおりです。

テキストⅠ：縄文楽検定テキスト『縄文文化と火焰土器』（信濃川火焰街道連携協議会、平成21年3月刊行）
 テキストⅡ：縄文楽検定テキストⅡ『信濃川火焰街道 縄文の旅』（信濃川火焰街道連携協議会、平成23年12月刊行）
 『あ、コレ知ってる！』：新潟県立歴史博物館編『あ、これ知ってる！はにわ どぐう かえんどのきの昭和平成』（新潟日報事業社、令和元年8月刊行）。
 日本遺産ストーリー：『日本遺産「なんだ、コレは！」信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化』ストーリー・構成文化財
 日本遺産ガイドブック：『日本遺産「なんだ、コレは！」信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化』ガイドブック
 （信濃川火焰街道連携協議会、令和3年度改訂版 ※平成28年度版とは頁数が異なるので注意）

No.	解	問題の出典と解説
1	d	テキスト外
2	b	テキスト外
3	d	テキスト外 大平山元遺跡は草創期の遺跡ですが、津南町・正面ヶ原D遺跡は晩期の遺跡です。
4	c	日本遺産ガイドブックp6,10,30など
5	d	日本遺産ガイドブックp15,26,31など
6	b	テキストⅡ p7など
7	d	テキスト外
8	b	テキスト外
9	b	テキストⅠ p33など
10	b	『あ、コレ知ってる！』p52
11	b	日本遺産ガイドブックp9,14,22など
12	b	日本遺産ガイドブック 信濃川火焰街道MAPp37～など
13	a	テキスト外
14	c	テキストⅠ p8
15	a	日本遺産ガイドブックp30
16	b	『あ、コレ知ってる！』p71
17	d	『あ、コレ知ってる！』p12
18	c	『あ、コレ知ってる！』p104
19	d	テキストⅡ p25
20	b	『あ、コレ知ってる！』p32
21		テキストⅠ p1など
		(解答例) 縄文海進は、今から約7,000年前ころ(縄文時代前期前葉～中葉)に、現在に比べて海面が2～3m高くなり、日本列島の各地で海水が陸地奥深くへ侵入した現象のことです。当時の日本列島は、今よりも数℃以上気温、水温が高く、温暖な時期であったと推定されています。
22		テキストⅠ p9,13など
		(解答例) 火炎土器は、縄文時代中期前葉から中葉にかけて成立・展開した土器様式の一つです。信濃川中・上流域を中心として、新潟県のほぼ全域に広がっています。火焰型土器を含む火炎土器様式の土器は、東日本の200を超える遺跡で確認されています。
		テキストⅠ p11など

(解答例)

王冠型土器は、その形が王のかぶる冠に似ていることからつけられた名称です。王冠型土器の基本的な形や文様は火焰型土器とほぼ共通しますが、鶏冠状突起の代わりに短冊状の突起がつくことや火焰型土器が水平の口縁に鋸歯状の小突起がつくのに対し、波状の口縁となる点が異なります。